



いのちのたび

発行:北九州市立いのちのたび博物館
ミュージアムティー・チャー

もうすぐ夏休みになりますね。いのちのたび博物館では、夏の特別展「Bones2 ほねほね運動会～はしる！」

とぶ!つかむ!～」を7月19日(土)より開催します。スタッフ一同、皆様のお越しをお待ちしております。

夏の特別展「Bones2 ほねほね運動会

～はしる!とぶ!つかむ!～

【開催期間】令和7年7月19日(土)～9月23日(火・祝)

動物の体を支え、動かす「骨」の様々な形や役割について、骨格標本やはく製の展示を通してご紹介します。九州初公開となるジャイアントパンダ(カンカン)のはく製が登場して、竹をつかむことのできるパンダの手の不思議を紹介します。また、硬い骨が化石となったからこそ古代の生態が明らかになった、肉食恐竜ティノニクスが植物食恐竜テノントサウルスを襲うシーンを再現した骨格標本など、貴重な標本が盛りだくさんです!!

大きさや形を体感できる触れる標本も展示しています。

また、身近な食べ物から骨の形を学ぶイベント等を開催します。詳しくはホームページを見てくださいね!!



料金	特別展のみ		常設展のみ		セット券(常設展+特別展)	
	一般	団体	一般	団体	一般	団体
大人	900円	720円	600円	480円	1300円	1100円
高・大生	600円	480円	360円	280円	900円	700円
小・中生	500円	400円	240円	190円	700円	500円

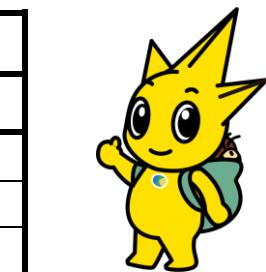
・団体は30名以上のお一人様料金です。

企画展「おもちゃでタイムトラベル 昭和50年」

会期 令和7年7月19日(土)～11月3日(月・祝)

※ 常設展入場券で観覧できます

昭和100年の真ん中で高度経済成長が終わり、時代の転換点となった「昭和50年」にスポットを当て、おもちゃやグッズにより、当時の暮らしや世相を体感的に振り返ります。



ミュージアムのタネ

むろまちじだい ぜに 室町時代の銭



中世の日本では、銭は中国から輸入していました。鎌倉時代には、年貢を銭で納める代銭納がひろくおこなわれるようになるとともに、生産した作物などは市で売買されました。室町時代には生産力の向上もあり、市での取引はさらに活発化しましたが、その結果、銭が足りないという状況がうまれました。この状況に人びとは様々な対応をしました。そのひとつが「100枚に満たない枚数でも100枚分としてあつかう」ことです。当時は銭1枚=1文(※)として数え、多くの銭をあつかうときには真ん中の穴にひもを通してまとめました(まとめたものを“びん銭”といいます)。もちろん、バラバラの状態なら97枚は97枚分の価値[97枚=97文]です。しかし、びん銭にすると、97枚しかないのに100枚分の価値[97枚=100文]となるのです。銭不足の状況のなかで、少ない銭で売買を成立させるためにこうした慣習が浸透していったと考えられています。また、銭は重くてかさばるため、遠くの地域とのやり取りには向いていませんので、その場合には1000文(=1貫文)の銭と交換が可能なことを約束した紙幣のようなものも用いられていました。こうした現象は、商売が活発に行われて、人びとが銭を使う機会が増えたということを示しています。

博物館の遺明船シアターでは、室町時代に中国(明)から輸入された代表的な銭である永楽通宝に触ることができます。ひもを通して、100文分の価値をもつびん銭にしていますので、重さや手触りを感じて、ぜひ枚数を数えてみてください。

ちなみに、この97枚=100文という慣習は、のちに96枚=100文が主流となり、江戸時代にはこれが定着します(「九六銭」などと呼ばれます)。博物館には、この九六銭の慣習にもとづいて、江戸時代の銭を96枚展示しているコーナーもあります。こちらもぜひ探して、数えてみてください。

※ なお、当時の銭1文は現在の価値でだいたい50円～100円程度とされていますので、仮に1文=80円で計算すると、100文=約8000円ということになります。



えいらくつうほう
(永楽通宝)



せん
(びん銭)



けんみんせん
(遺明船シアター)

れきしか がくげいん さとう りょうせい
歴史課 学芸員 佐藤 凌成

